

# 平成18年度 施策評価シート

平成18年11月1日記入

## 総合計画における位置付け等

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	14210
政策名(章)	第4章 人間性豊かな子どもを育成します	評価担当部	生涯学習部
基本施策名(節名)	第2節 青少年の健全育成	評価担当課	青少年課
施策名	青少年活動の促進	課長名	田所 哲男

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

地域における青少年団体の活動支援、育成に努め、青少年指導者等の育成、確保、各団体相互の連携強化を図るとともに、青少年に多様な体験学習・交流の場を提供し、自主活動や社会参加活動を支援する。  
 青少年団体等の活動の場として青少年学習センターにおける施設提供のほか、青少年の体験や活動の機会を提供するための事業や、青少年指導者への研修を実施している。また、青少年関係団体に補助金を交付しその活動の充実と活性化を図っている。(青少年課)  
 子どもの広場は自治会等が設置主体となり民間の遊休地を利用する制度であり早急に子どもの遊び場を確保するには有効な施策である。(こども施設課)

## 2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		69,746	概ね事業費は減少しているが、15年度の施策評価時点では構成事務事業に入れていなかった「施設維持管理費」及び「児童遊園維持管理費」を加えたため、経費増となっている。
人件費		37,030	
市民一人あたりの事業費	100	160	
合計	61,591	106,776	

\* 人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

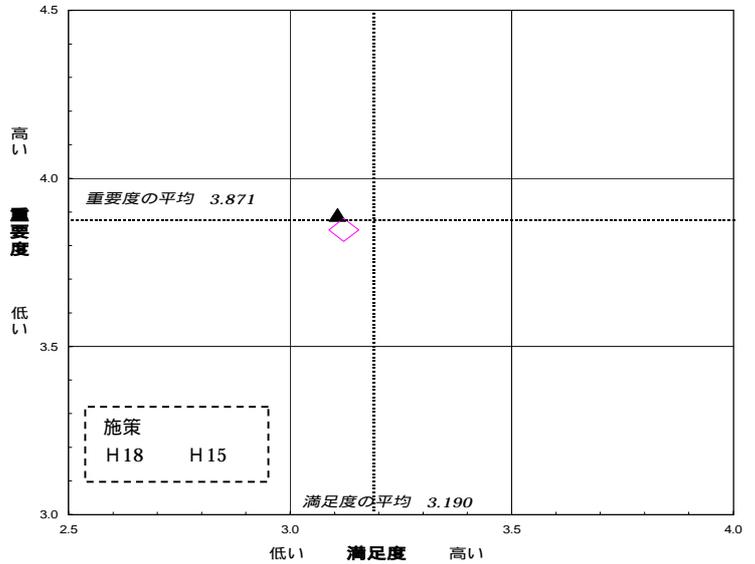
## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	青少年団体等の青少年学習センター利用率	青少年団体等の利用件数 / 全利用件数 × 100 H16青少年団体等の利用件数: 3,390件 / 全利用件数: 5,479件	61.87%	16
指標2	市子連への子ども会加入率 会員数 / 児童数 × 100	会員数 / 児童数 × 100 H16会員数: 17,292人 / 児童数: 35,496人	48.70%	16
指標3	青少年を対象としたリーダー養成研修会等の平均参加者数	参加者数 / 開催回数 = 平均参加者数 H16参加者数: 204人 / 開催回数: 11回	18.5人	16
指標4	子ども会活動の活性化を目指した大会・講座等の平均参加者数	参加者数 / 開催回数 = 平均参加者数 H16参加者数: 1,409人 / 開催回数: 26回	54.2人	16
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1 達成率	65% / 64.99%	19	66%	21	67%	青少年層は利用時間帯が限られ大幅な利用増は困難なため、基準値の5%増で設定。
	100%					
指標2 達成率	50% / 48.00%	19	49%	21	50%	市子連への加入率の低下傾向から判断し現状維持を目標として設定。
	96%					
指標3 達成率	30 / 29.2	19	32.5人	21	35人	研修会の会場や適正規模等を考慮し、上限に近い数値を設定。
	97.3%					
指標4 達成率	58 / 57.3	19	60人	21	65人	あそびの学校やボランティア体験など実践的活動により、H16から17の増加率約6%を踏まえ、H16最終20%増にあたる目標値を設定
	98.8%					
指標5 達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.121で51施策の中で34番目。  
 重要度は3.847で25番目である。  
 改善要望度は0.0322で22番目である。  
 年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、40歳代で最も低くなっている。  
 重要度は、70歳以上で最も高く、30～50歳代で低くなっている。  
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。  
 満足度の順位では、20、30、60歳代で前回調査より上がり、40、50歳代で大幅に下がっている。  
 重要度の順位では、30歳代、60歳以上で前回調査より上がり、50歳代で大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4② 1	青少年活動を促進するためには、活動の場及び機会の提供、青少年育成団体の活動支援等、幅広い支援が必要な一方、青少年自身の自発性によるところが大きいことから効果の検証が困難な部分があるが、指標に掲げた事業の達成率は着実に上がっている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④ 2 1	指標に掲げた事業に係る経費は毎年圧縮し、平成14年度に比較して大幅に減少しているが、達成率は着実に上がっており、効率性においては評価できる結果である。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 2①	子どもに関する多くの調査結果から、子どもの規範意識や忍耐力の向上のために、様々な体験活動や居場所の必要性がいわれており、こうした観点を踏まえ事業を推進しているが、重要度及び満足度いずれも平均値を若干下回る結果になっている。	
合計		7	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	青少年が青少年学習センターを利用する場合、学校や勤務の関係で平日の昼間以外の時間帯に限られることから、この時間帯は一般団体の利用が多く、館全体の利用率を上げる要因にはなるが、青少年団体の利用比率を押し下げる結果となっている。また、Sネットシステムの事前予約が無制限のためキャンセルが頻発する弊害がある。
解決策	青少年への活動の場の提供に関して、青少年学習センターの青少年団体の利用は上限に近いことから、今後は主催事業の充実を図ることで利用の促進につなげることとする。また、Sネットのシステムについては、プログラム改定のための検討を進める。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

課題と解決策にあるとおり、適正な利用を促す仕組みの検討を行う必要がある。	2次評価 B
--------------------------------------	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



